

一般財団法人 研究学園都市コミュニティケーブルサービス

第44回 放送番組審議会 議事録

- 1 日 時 令和6年3月29日(金)午前10時30分～午後零時00分
- 2 場 所 ホテル日航つくば 本館3階ジュピターウエスト
- 3 出席者 中山伸一会長、生田目美紀委員、馬場清康委員、鷺田美加委員、石塚敏之委員、勝村英樹委員
【ACCS】
森下理事長、金谷副理事長、梅原理事、竹谷理事、山崎放送部次長、小野放送部次長

4 議案の審議経過等

- (1) 会議に先立ち、定足数の確認を行ったところ、出席委員は6名であり、放送番組審議会規定第4条1項の規定により、本審議会は有効に成立していることを確認した。
- (2) 議事に入る前に、森下理事長がACCSを取り巻く状況と今後について説明した。
- (3) 中山会長の進行で議事に移り、まず昨年開催した第43回放送番組審議会の議事録の内容を確認した(議事1)。続いて、令和5年度に制作・放送した中から4番組のVTR(15分)を上映し、「ACCSコミュニティチャンネル放送について」(議事2)と「多チャンネル放送番組等について」(議事3)を説明し、意見交換した。

5 質問

【鷺田委員】

多チャンネルサービスでWOWOW4Kの追加は喜ばしいが、どのような仕組みなのか？

【山崎次長】

今年の5月にスターチャンネル3チャンネルのうちの2チャンネルが終了し、周波数帯域が空くので、WOWOW4Kを放送できるようになった。

6 意見交換

【勝村委員】

ACCSは、いつも趣向を凝らした企画や地域の魅力を発信してくれている。コロナが明けてか

ら、つくば市は自転車の貸し出しや高齢者サポートなど、市民に外出を促す政策を取っている。市民に外出を促すという点で、『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』はいい番組だ。道の駅では、地域の名物や地域の売りを出す必要があるが、番組では道の駅の特徴がよくわかるので、その地域に行ってみたいという気持ちになる。

研究機関でどんな研究をやっているのかわからない人が多いが、『つくば de 科学』では、レポーターが掘り下げていてわかりやすく番組を作っているのが素晴らしいかった。特別番組『世界のつくばで子守唄』は、ナレーションが英語で始まり字幕が入らないのかと不安に思ったら、いきなり茨城弁のナレーションが入ったので爆笑した。

【石塚委員】

番組のクオリティが上がっている。相当苦勞されているのだろう。素晴らしい実行力だ。『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』だが、私は今回の番組にでてきた「道の駅みわ」を知らなかった。その道の駅に行きたくなるいい番組だ。方言を紹介したパネルを取り上げているのがよかった。

『つくば de 科学』は、県外の人につくばを紹介するのにはいい番組だ。「詳しく知りたかったら、研究所に来てください」と研究者が答えているのがよかった。レポーターが、テレビを見ている人を想定して難しい話題を掘り下げているのがよかった。わからないところはあったが、入り口でシャットアウトしないのがよかった。

特別番組『世界のつくばで子守唄』だが、これも方言を取り上げていてそれだけでも面白い。ケーブルテレビは、こういう番組が見られるのが強みだ。限られたリソースを工夫すれば、番組を見てもらえると思う。

【鷲田委員】

4年ぶりに開催された「まつりつくば」の生中継や、私の推し番組『市長が語る』に加え、新しい番組の道の駅など、楽しく役立つ情報をいただいている。今回の『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』で放送された「道の駅みわ」も何度か行っているが、番組に知らない情報があった。アクセスや地図も紹介されて、初めての人も初めてでない人もアクセスしたくなる。

『つくば de 科学』はACCSならではの番組。今回のテーマの宇宙の始まりだが、インタビュアーが、専門家のハイレベルな説明を視聴者にかみ砕いているのが素晴らしい。「人工衛星を打ち上げるけれど、望遠鏡では駄目なのか」という質問し、「望遠鏡だと全体を見られないから」と研究者が答えていた。通訳の存在は大きく、ディレクターは専門の方なのか興味ある。

時代の流れは様々変わるが、若い方はリアルを重視する流れがある。Vチューバーがわざわざアナログで配信している。私の娘は大学生だが、自分の顔と自分の見ているものを写真で撮って交換する「BeReal（ビーリアル）」というアプリを使っている。このアプリでは補正加工した写真は交換できない。補正しないものをわざわざ送ってお互いのリアルを感じている。コロナ後ということで、若い世代はリアルのつながりを求めている。ACCSは有線でつながり、補正していないリアルを放送していて安心感がある。ACCSには、視聴者が孤独感を感じないで、つながりを感じられる番組を作してほしい。

【馬場委員】

『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』だが、道の駅は今、大規模になり高機能化して、道の駅に行くために出かける人もいる。道の駅は16か所あり、月1回で紹介しているが、終わった後はどうするのか？

【小野次長】

これまでに撮影した素材を麺類とかパン、洋菓子というジャンルで絞り、ランキング特集をするなどを考えている。

【馬場委員】

今回視聴した『つくば de 科学』は、難しかった。インフレーションやライトバードは素人には理解できない部分があった。「科学のまちつくば」をわかりやすく紹介してほしい。1月に『ウィークリーACC S』で、「特集つくばの1年」が放送されたが、4月の科学技術週間を紹介していた。その紹介が簡単で短いの、長くしたらいいと思った。

『世界のつくばで子守唄』は、各国の子守歌の歌詞のテロップが入ったのがよかった。私は会場にいたが、聴いていたときは意味がわからなかったの、番組を見て意味がわかってよかった。ただ、なぜこういうイベントをやっているのか、なぜ金色姫が出てくるのか、つくばセンタービルの40周年記念に世界の子守歌をやるのはこういう意味があるという説明が画面に出れば、もっと感情移入できた。なぜつくばで世界の子守歌なのかという紹介がほしかった。

「まつりつくば」の生中継は、今後も続けてほしい。また、高校野球中継では、地元の高校の地区大会も放送してほしい。

私は、新聞のテレビ欄でACC SとNHKのコラボ番組があることを知って、NHKBSで放送された「ザ・穴場ツアー CATVネットワークつくば編」を見た。70年以上住んでいるが、この番組で取り上げていたJICAの食堂や筑波実験植物園の標本棟は知らなかった。この番組の企画はNHKが行ったのか？

【小野次長】

取り上げる施設については、ACC Sから提案した。

【生田目委員】

私は現在、京都とつくばを行き来しているが、つくばに戻ったら「ウィークリーACC S」を見るし、京都にいたときもACC SのYouTube を見ている。番組の質が年々上がっており、カメラワークやインタビュアーのレベルが上がっている。ユーチューバーを目指すためにACC Sで職業体験を希望する生徒の気持ちがある。

『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』は抑えどころがうまい。地域の放送局で大事なものは、地域にこんな場所があったと知らせるところだ。特に遊びと食が抑えどころだが、道の駅はその点がうまい。

『つくば de 科学』は、つくばならではの切り口なので充実してほしい。今の『つくば de 科学』は入門用なので、子どもが加速度研究所に行きたくなるような、もっと専門的な中級、上級バージョン

ョンも作ってほしい。

『世界のつくばで子守唄』だが、今日、編集された映像を見て、A C C Sだと早送りができないことに気がついた。今の人たちは動画を早送りする、Y ou T ube だと視聴率が高いところだけ見る、スマートフォンのショートやリールといった1分程度の短い縦型動画になれている。また、方言という切り口がよかった。関西では方言の番組を作っており、茨城の方言番組もいいと思う。茨城には、焼き物も結城紬もあり、文化レベルが高い。そういう文化を取り入れて番組を作れる。茨城の風光明媚を紹介するなど、いろんな番組が作れると思う。

【中山会長】

『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』は、最初この番組の趣旨を聞いたとき、この番組はA C C Sにとってどういう位置づけなのかと思った。私は、A C C Sはアーカイブの視点で番組を作っていく必要性を主張してきたが、道の駅はアーカイブではなく、「放送番組の編集に関する基本計画」の6に基づいて作っていると感じた。A C C Sの視聴者にとって有益な情報を提供しているし、Y ou T ube の視聴回数を調べたら、ほかの番組が数百程度なのに対し、道の駅は2, 0 0 0とか、3, 0 0 0回も視聴回数があるので、つくば以外の人も興味を持っている。そういう番組がつくばにあるという意味でもよいことだ。茨城県の道の駅だけでなく、つくば市にいる人がちょっと出かけたという点では千葉県の県北地域も含められるので、そういう点の取材を考えてもいいかもしれない。

『つくば de 科学』は、アーカイブ的には重要。過去のアーカイブがY ou T ube にあるが、その当時の研究者が対応して内容的にも面白い。取材先をどう選んでいくのかというのが重要なので、つくばにはサイエンスコミュニケーターがいるので、そういう人とコミュニケーションを取って番組を作るのがいいかもしれない。各研究所でどんな研究をしているのか、その時の状況をアーカイブしていくことで、重要な番組だ。

『世界のつくばで子守唄』は、先ほども意見が出たが、なぜ子守歌なのか、なぜこのテーマなのかというのがわかりづらかった。昨年の審議会で取り上げられた特別番組『七夕コンサート』もテロップが表示されていなかった。イベントの目的やどんな人が主催しているかという情報をテロップで流してもらえると興味が深まる。長尺の番組の場合、そのまま流すというのは番組を作る点では楽だが、歌の内容だけでなく、イベントの目的をテロップに入れた方がいい。生放送番組は引き続きがんばっていただきたい。

つくばができた頃の映像などはY ou T ube でも視聴回数が多い。アーカイブ的な番組を再構築してY ou T ube にアップし、視聴回数が多い番組は自主放送枠で再放送すれば、制作コストが削減されることを考えてもいい。

電子番組表は、どうやって情報提供をしているのか？

【小野次長】

我々が番組情報を登録している。

【中山会長】

番組表の情報は番組を見るきっかけになるので、例えば科学番組など一行でいいから番組内容を加えた方がいい。番組を録画する人も多いので、参考になる情報を番組表の中に入れれば、番組をより多くの人に見てもらえる。

アーカイブを利用してコストを下げた番組を作ることも考えてほしい。

【馬場委員】

『市長が語る』の定例記者会見の放送では、記者の質問が聞きづらい。市長の声はクリアだが、質問が聞こえないのでわかりづらい。つくば市広報戦略課と協力して音声の問題を解決するか、またはテロップを入れるなど、工夫できないか？

【小野次長】

各記者にマイクを立てるのは難しいため、カメラのマイクで拾うしかない。

【鷲田委員】

『茨城 道の駅 ぶらり旅!!』で、原木シイタケをPRしているのが、「原木シイタケは貴重」という一言があった方がよかった。アーカイブには、科学万博を含めて貴重な映像資料があるので今後、有料の映像コンテンツとして販売していける可能性があると思った。

【小野次長】

今年度は、民放などから映像素材の提供の希望がいくつかあった。無料で映像を提供しているが、放送時には従来の「ACCS提供」から「つくばのケーブルテレビACCS提供」とテロップの変更をしてもらっている。

【中山会長】

アーカイブの再放送は肖像権もあって難しい部分もある。うまくできるものを出していく感じで、アーカイブを再利用してほしい。

【生田目委員】

文字テロップは、最近は音声自動翻訳が進んでおり、苦勞せずテロップが作れる。ボタン一つで字幕を表示できるクローズドキャプションの機能をつければ、番組がよくわかる。

アーカイブについてだが、つくばにはとっても風景がきれいなところがある。ドローンが飛ばせるのであれば、場所を決めて春夏秋冬それぞれ撮影すると、今後都市開発がどう進むかわからないので、貴重なアーカイブになると思う。

また、若者に番組の作り方を教えて、作った映像を作品として放送するなどして、番組に若者を取り込んだほうがいい。

【石塚委員】

アーカイブの関係だが、筑波研究学園都市を長年見てきたのがACCSなので、これからも地域

の最も重要なメディアとして活躍してほしい。

【中山会長】（総括）

年々、番組制作は技術、内容とも向上しているとの意見が多く出された。今後も引き続き、精進してよい番組を作してほしい。